

令和6年度 第2回足立区子ども計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区子ども計画審議会 第2回		
事 務 局	政策経営部 子どもの貧困対策・若年者支援課		
開 催 年 月 日	令和6年11月21日(木)		
開 催 時 間	午後6時30分～午後8時15分		
開 催 場 所	足立区役所 南館8階 庁議室		
出 席 者	【委員】		
	藤原 武男 会長	末富 芳 委員	山田 哲也 委員
	加藤 泰弘 委員	川上 重昭 委員	高木 政代 委員
	中山 勇魚 委員	小野 茜 委員	菊地 美穂 委員
	田中 優哉 委員	山崎 衛 委員	太田 せいいち 委員
	しぶや 竜一 委員	ぬかが 和子 委員	水野 あゆみ 委員
	中村 明慶 委員	長谷川 勝美 副会長	
	【事務局】		
	あだち未来支援室 伊東 室長	子どもの貧困対策 ・若年者支援課 濱田 課長	子どもの貧困対策係 今 係長
	子どもの貧困対策係 清水	子どもの貧困対策係 樫村	若年者支援推進担当 加美山 係長
若年者支援推進担当 済賀			
関 係 所 管	政策経営部 勝田 部長	福祉部 千ヶ崎 部長	衛生部 馬場 部長
	教育指導部 岩松 部長	学校運営部 絵野沢 部長	子ども家庭部 楠山 部長
欠 席 者	阿部 彩 委員		

<p>会 議 次 第</p>	<p>1 会長あいさつ 2 こども計画「基本理念（案）」の検討について【資料1】 3 意見交換</p> <p>※ 次第4～7は予定していたが実施せず</p> <p>4 こども計画「柱立て」の検討について【資料2】 5 意見交換 6 こども計画「施策」について【資料3】 7 意見交換 8 事務連絡</p>
<p>資 料</p>	<p>【資料1】基本理念に関する説明資料 【資料2】柱立てに関する説明資料 【資料3】施策に関する説明資料</p>

令和6年度 第2回足立区こども計画審議会

○事務局

それでは定刻より少し早いですが、皆様お集まりですので、これから第2回のこども計画審議会を開催します。本日はお忙しいところをご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私、子どもの貧困対策・若年者支援課の濱田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。なお本日、学識の山田先生はオンラインでのご出席となります。よろしくお願いいたします。阿部先生は本日欠席です。

次第に入ります前に、本日の配付資料の確認からさせていただきます。まず事前に皆様にお送りした資料です。第2回足立区こども計画審議会の次第。続いて資料1、第1回足立区こども計画審議会でのご意見の集約①。こちらは全部で9ページの構成で、1ページから7ページが資料1、8ページが資料2、9ページが資料3となっています。最後に机上配付の席次表です。

続いて、前回の審議会と同様のご案内です。本審議会は足立区こども計画条例第8条により、会議を公開とさせていただいております。会議録についてもホームページなどで公開させていただきますことをご了承をお願いします。続いて、席上のマイクの使い方のご案内です。発言の際にはお手元のマイクのボタンを押していただき、ランプが点灯しましたらご発言をお願いします。なお、ご発言の際は、会議録作成のためにお名前をおっしゃってからお願いいたします。ご発言が終わりましたら再度ボタンを押してください。

では、ここから藤原会長に進行をお願いします。

1. 会長挨拶

○藤原会長

東京科学大学という名前になりました。東京医科歯科大学が東京工業大学と合併して英語で

Institute of Science Tokyoということで、Science Tokyoと覚えていただければと思いますが、その藤原です。中身は変わっていません。よろしくお願いたします。前回本当にたくさんのご意見をいただきまして、今日もぜひ公募委員を中心にご意見をいただきながら、こども計画をより具体的な踏み込んだ内容になってくると思いますが、作っていきたく思っております。前は最初でしたので、私から促すような形だったのですが、どんどんご意見があれば手を上げていただいて、存分におっしゃっていただければと思います。今回はそういう形で、どんどん皆さんの言いたいことを言っていただく形で進められればと思っております。よろしくお願いいたします。

阿部委員が残念ながら来られていないのですが、次に来られたらいいなと思っております。

2. こども計画基本理念案の検討について

○藤原会長

では、早速こども計画の理念等について、事務局からご説明をいただいた後に議論をさせていただきますと思います。

○事務局

事務局から次第2のこども計画基本理念案の検討について、資料1の7ページまで一括で説明させていただきます。

まず1ページと2ページについては、前回8月に実施した第1回のこども計画審議会で委員の皆様からいただいたご意見を、子ども・若者当事者のご意見と、そして子育て家庭に関するご意見。地域における協働や体制整備に関するご意見ということで、三つに整理しています。皆様から居場所についてですか、保護者支援について。また、地域や支援団体との連携。それから経験・体験等の充実等多くのご意見をちょうだいしています。

3ページをご覧ください。委員の皆様からい

ただいたご意見から、今事務局の方で子ども・若者当事者があらゆる場面において未来に向かって自分らしい選択ができるというところを理念のポイントと捉えさせていただいております。子ども・若者が生まれ育った環境に左右されず、諦めることなく自分らしい選択ができる社会こそが、子どもの活力を原動力として、地域や足立区全体が成長するという好循環を生むことができるのではないかとということで、足立区の今基本構想の理念で、協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立、というところが理念ですが、こちらを体現できると考えております。

続いて4ページをご覧ください。以上を踏まえて理念の事務局案です。生まれ育った環境に左右されることなく、子ども・若者が未来へつながる道を選べるアダチをつくっていくとさせていただいております。足立区では貧困の連鎖を多くのボトルネック的課題の根底として、重点的に施策を実施してまいりました。生まれ育った環境に左右されることなくという表現ですが、これからも区が今まで実施してきた貧困対策について、緩めることなく施策を進めていくという思いをこちらに込めております。貧困対策の重要性については、委員の皆様からご意見をいただいておりますので、最も重要な視点として理念の冒頭で表現をさせていただいております。次に、子ども・若者がというところですが、本計画の対象となるすべての子ども・若者ということで表現しています。次に未来へつながる道を選べるということは、現在も含めて人生の様々な場面において、夢や希望を諦めることなくチャレンジができることを表現しています。委員の皆様、子ども・若者当事者から、自らの過ごし方ややりたいことが選べるということや、将来の選択肢を広げる手助けが欲しいですとか、そういったようなご意見もありました。子ども・若者が人生の様々な場面において生まれ育った環境などにより、諦めることなくやりたいことに挑戦したり、様々な可能性にチャレンジができる。またやりたいことを見つける後

押しをしてくれるそんな足立区であれば、本当に活気があって素晴らしい区になると考えて、こういった案を示しています。最後のアダチをつくっていくというところですが、こちらは仕組みづくりも含めて、ハード・ソフトなど様々なつくる、の意味を込めて、あえてひらがなで表現しています。

続いて5ページをご覧ください。理念についてイメージで示しているものです。人生を道で表現しています。子ども・若者を中心に、これはこどもまんなか社会というところも表現させていただいているのですが、家庭や地域、それから様々な支援を受けて、アタッチメントを醸成しながら、人生の様々な分岐点において自分らしい選択を行いながら、成長をしていく姿というところを表現しています。

続いて6ページ、7ページが子ども・若者から直接いただいた意見です。6ページの子どもの意見については、本日ご出席のChance For Allの中山委員にご協力をいただきまして、区内の2か所で実施しているプレイパークの事業で、子どもたちに直接意見をいただいたものを載せています。プレイパークについては、3人から4人の大学生ボランティアがパークリーダーとして子どもたちを見守りながら一緒に遊ぶという事業です。ここに集まる子はとても明るくて前向きで、やりたいと思うことができている子が多いと我々としては印象を持ちました。公園が居場所となって、大学生のパークリーダーが第3の大人としてロールモデルとなって、そこで相談ができたりとか、一緒に遊んでもらったりということで、子どもたちにいい影響を与えているのだなと感じております。子どもの第3の居場所としてのモデルケースになっていると事務局としては考えています。

続いて7ページ。こちらが今年度から実施している若者会議で高校生・大学生から直接いただいた意見です。こちらに書いている通りですが、主に職業体験ですとか、夢を見つける手助けが欲しいとか、将来の選択肢を広げるための支援についての要望があったということで、

こちらにまとめています。

最後になりますが、理念について事前に委員からいただいた意見がありますので、この場でご紹介します。今回理念ですが、現在が選べるからこそ、未来につながるのではないかと。理念には現在という言葉を入れた方がいいのではないかとのご意見をいただいています。また、5ページの方で理念のイメージ図をご説明しましたが、左上の点線の丸。成長とか変化を表しているのですが、その中に遊びという概念も入れた方がいいとのご意見をいただいています。

以上、次第2、理念についての事務局の説明は以上です。

3. 意見交換

○藤原会長

ありがとうございました。4ページのピラミッドみたいなのところがありますが、基本理念のことを今日まずは話したいと思います。このピラミッドの一番上の基本理念というところを今日は決めるというのが、絶対やらなければいけないことなので、それがまとも次第、次の薄く見えている柱立てというところに移ります。まずは理念というものです。目指すイメージをどういう言葉で落とし込んでいけるかというところをまずは話し合う、というご説明だったかと思います。いかがでしょうか。この言葉、そしてそれをイメージするための5ページの図ですが。これは基本理念のイメージ図も外に出ていくものになるということなのですが、ご意見をいただければと思います。

最初に現在も未来も選択できるというようなご意見もいただいたところから行きましょうか。ご意見をいただいた方からさらに詳しく説明をしていただいた方がいいと思うので、中山委員、お願いいたします。

○中山委員

Chance For Allの中山です。生まれ育った環境に左右されることなく子ども

たちが未来を選択できるというのは大変素晴らしいことだと思うのですが、やはり私たち自身ずっと子どもたちと関わってきて、子どもたちにとって一番大事なのは今だと思うんですね。今つまらないとか、例えばいじめを受けているとか、家庭が非常に厳しい状況で、毎日苦しい思いをしているといったことに対して、無料で学習支援があるよと言っても、なかなかそこで頑張って自分の未来を明るくしようとは思えないと考えます。なので、特に子どもたちが日々楽しい。それは正直、家庭や環境に人生は左右されていくのですが、それでも地域として、社会として左右されない居場所ですとか、関わりを作っていくって、子どもたちが今を楽しく、未来に希望が持てるところから始めないと、なかなかいろいろな施策を打って、選べるよと言っても、子どもたちが選ぶのは難しいのではないかなと思っています。そういう意味で子どもたちが今も幸せに生きていって、それが未来を選べることに繋がっていくのだということを、ぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

○藤原会長

ありがとうございます。今の中山委員のご意見に対して。

○末富委員

日本大学の末富です。私も中山委員が今おっしゃったことを言おうとしていて、今の国の子どもの貧困対策でも、10年掛けてやっと子ども基本法までたどり着いて、こども大綱で、子どもたちの今の幸せを保障しますというところまで行ったんですよ。だから10年前の光景を見ているようだなと今日の資料を見て思いました。子どもたちが今幸せであることが重要で、それはなぜかという、足立区の基本計画でも、自己肯定感を持ち笑顔で健やかな子どもを育てると書いてあるじゃないですか。笑顔というのは、今が幸せじゃないと実現できないですよ。その意味で、区の基本計画との整合性から言っても、今の幸せが重要だと思います。

あとですね、選べるとなると、これは子どもの責任なのかということになります。子どもが選べる選択肢が限られていると思うんですね。限られた選択肢の中から選べると言われても、多分子どもたちはそんな幸せじゃないです。選べるというのは、子どもに責任を帰す考え方じゃないかと懸念します。そうではなくて、子どもたちにいかに豊かな選択肢を保障するかが大人の側の責任です。行政計画としてのこども計画は、子どもたちがこうしたことをできるようにするという時に、大人の側の責任も明記すべきです。選べることを重視するのであれば、恐らくこの基本理念案の中に、それでは足立区は子どもたちに可能な限り豊かな選択肢を保障すると書かなければいけないはずで、その豊かな選択肢から子どもたちがさらに選べるというふうにしなれば、多分この理念は成り立たないと思いますので、選べるというワーディングでいいのか、もしそれを使うならば、選択肢を用意する大人の責任。特に区の責任を明記すべきだということを申し上げたいと思います。

○藤原会長

ありがとうございます。本当にその通りなのですが、どう言葉にするかですよね。最初、現在も未来も選べるっていうふうに出ていたので、いろいろな誤解も生むかなというので、選ぶというのが現在形なので、そこに含まれているというようなことでこの案が出てきていると思うのですが。より今の幸せをこの理念の中に入れていくことは、確かにあまり見て取れないので、そこはニュアンスとして入れていくのはいいのかなと思いますがいかがでしょうか。公募委員の皆様。

○山崎委員

公募委員の山崎です。今中山委員のお話をうかがっていて、確かに今幸せでない駄目かなというのは、改めてご指摘をいただいて、ああ、そうだなと私も思いました。同感です。今末富委員がおっしゃった通り、選べるって、この理

念を見て、最初にうかがった時は結構さらっと、前回の議論の内容を抽象的にどんどんまとめていって、選べる、選べると。高校生は選べるという意見を結構言っていて、それがここに入ってきたのだろうと思うのですが。一つだけ理念に掲げる言葉としては、何となく違和感があったんですね。駄目という意味ではなくて、これは新しさなのか、違和感なのかちょっと分からないのですが。選べるっていうことには大人の責任が伴うということなのですが、やはり区として選択肢をたくさん示さなければそもそも選べるということにはならないです。どこまで選ばせてあげるのか。どう制限を掛けるのかということも必要です。あとは心理的に言えば、選ぶということは迷いが生じることとなりますので、選ぶ時に誰がサポートしてあげるのかということにもつながっていく問題だと思います。あるいはそういう選択肢があるということを知りなければならぬ部分もあって。これは末富委員と似たようなことを私も考えたのですが、これここに書くと区の責任ってものすごく重くなるのではないかなと思ったんですね。

選びたい時に、本当に選べるのか。どこまで選ばせてあげられるのかということも結構難しく。教育現場で巡回相談を受けていますと、不登校支援の教室に通うのか、いわゆる通級というコミュニケーションの教室に通うのかという時に、発達障がいがあるからコミュニケーションに通いたいけど、不登校なので不登校支援にも通いたいと言った時に、制限が掛かるわけですね。ただ、将来的にその子の自立を目指した時に両方を選びたいと言った時に、選ばせてあげられるのかどうなのかというところが、やっぱり選べるという言葉に現場感覚で行くと入ってきちゃって。結構どこまで選べるに含めるのかということを読んで考えました。この選べるという文言がいいのかどうかを、他の皆様のご意見もうかがいたいと思います。

○藤原会長

ありがとうございます。現場の声をいただきました。

○小野委員

ちょっと漠然としたことになるかもしれませんが、いつも通り児童養護施設のボランティアを通じて思ったのですが、やっぱり進学なんてしたくてもお金がないからかなり難しい状況になるから、結局そんなものを選べるなんて思ってもいないみたいな状況とかもかなりあるということ思い出して。なので、未来へつながる道が選べるかどうかではなくて、今ある選択肢がそれしかないという場合もかなりあると思うんです。いろいろな子どもたちにとって。なので、それを今の幸せ、それを選んだとして、選択肢がない状況であったとしても、じゃあそれをやりたいかは置いておいて、その道に進んでも未来でちゃんと幸せに生きられる。今も未来も幸せになるというようなことが、選べるよりも大事なのかなと感じました。

○藤原会長

ありがとうございます。結局選んだ先の幸せが何かというところですね。主体的に選んでいるならば幸せだろうという前提で行けますけど、必ずしもそうではなくて、そうではなくても幸せに生きていくことはできるし、そういうふうな足立区がサポートができるといいですね。なかなか深い議論になってきました。

○山田委員

最初の末富委員のご発言とかなり意見を同じくしています。やっぱり未来だけじゃなく現在も重要だということ。選ぶ主体は子ども・若者ですが、選択肢を可能な限り用意するとか、今までの委員の皆様のご発言にもあったように、選ぶことをサポートしていくとかですね。選べない状況をどう考えるのかとか、あるいは選んだ後はどうするのかとか、いろいろなことがあるなと思いました。

その上で、ややまとまりがないかもしれませ

んが、基本理念の案ですが、選べるアダチをつくっていくというのがあるわけですが、これは割と多義的な言い方ができるかなという印象を持ってまして。選べるような環境をきちんと保障していくような足立区をつくっていくと読めるようにも思いましたし。それから選ぶのは子ども・若者なのだからと読まれてしまう恐れもあるのかなという感じがして、その辺の懸念が皆さんの発言の中にもあるのかなと思いました。

未来につながる道を選べるアダチをつくっていく原案に対して、より意味を明確にしていくのであるならば、未来につながる道を選べることを保障するとかですね。選べる環境を提供するとか、今思い付きなので、もっとこなれた表現があるかもしれませんが、区として選択肢をきちんと広げて示していく、サポートをしていくという意味合いをよりクリアにするような理念に調整していくことがあり得るのかなと思ったのが一つです。

それからもう一つは、これは理念の性格の確認なのですが、区としてどこまで責任を負うことができるのかという話が出ましたが、ここでの理念がいわゆる到達すべきゴールというか、到達点を示す、到達目標を示すのか、それともこれはすぐには到達するかどうかは分からないけれども、でもその方向に向けて努力をし続けていくというか、ある種教育学の世界では、到達目標という区別がありますが、必ずこの理念を達成することを保障するのだという、そういう意味での理念とか、すぐに達成できるかどうかは分からないけれども、未来志向というか、より高い理念ですね。すぐには到達できないかもしれないけれども、目指すべき高いゴールですね。あえて掲げてそこに向けて不断に追求していくという。そういう意味合いの理念なのかということでも、ちょっと性格が変わってくるのかなと思いましたので、もし事務局としてここで言う理念が必ず足立区は保障すべきゴールなのだと。到達線を具体的に示すような、そういう意味での理念なのか。それともすぐに到達

できるかどうかは約束できないけれども、不断にそこに向けて努力をし続けていくという、そういう目指すべき方向性を示す、そういう意味での理念なのか。その辺りをもう少しご説明をいただくと、少し基本理念を決めていく時の議論の足場になるのかなと思ったので、これは質問です。

○藤原会長

ありがとうございます。私もそこをやっぴりはっきりしないといけないと確かに思いました。足立の子ども・若者の将来像と、施策や事業の基本的な方針なのですが、やっぱりこの二つを盛り込むと、なかなか難しくなってくるのでどうなんですかね。どちら寄りの基本理念なのでしょう。

○事務局

今の山田委員からのご質問については、こちらの理念については、足立区としての目指すべき将来像ですね。足立区の子どもたちがこういった自分たちの思いとか、そういったものを選べるような環境が整う。ここは非常に高い目標にはなると思うのですが、そのために区としてはどういったことをやっていけばいいのか。どういった支援をしていけばいいのか。区だけではなくて、地域も含めてどういった対応をしていくと、子ども・若者が自分の未来に向かって前向きに選んでいけるような将来を描くことができるのかというところを目指していくという考え方です。

○藤原会長

確認したいのは、足立区の子ども行政の理想像を言っているのか、子どもたちの理想像をここで書くのかを聞きたいのですが。だから、それが一緒になっているから、ちょっと混乱していると思うんですね。

○伊東室長

今回これでお示しをしている主語としては、

子ども・若者がということにしているのも、子ども・若者がこうあった方がいいのではないかと、というところで今回は書かせていただいています。なので、どんな環境のお子さんであっても、選択肢の幅はいくつもあるかもしれませんが、その子たちにとってふさわしい道がきちんと選んでいける、考えていけるというような形を、もちろん行政の施策を提供しながらやる。地域の中でやるということを進めていきたいと思います。ということで、子どもの理想像を今回は示しています。

○藤原会長

私が思ったのは、子ども・若者の理想像というのは、今の中山委員とか末富委員の話を見ると、要するに子ども・若者が、今も未来も幸せな足立というのが揺るがないものだと思うんですね。小野委員が言われたように、いろいろな責任の話もあって、選ばなければいけないのかと。選ばない幸せはないのかという話になると思うんですね。そうすると、その理念から外れた部分に選ぶが入ってくると、施策に落とし込んでくると何かできてしまうので、何か理念の中に方針が入ってくると、なかなか難しいなと。何か長くなるというか。という気がするのですが。どうなんですかね。私が行政は素人なので、青臭いことを言っているだけかもしれませんが。

○中山委員

皆さんのお話を聞いていて、やっぱりまさに今小野委員もおっしゃって、会長もおっしゃっていた、今も未来も幸せであることというのが大前提だなと思っていました。それを何かぜひ載せてほしいなと思ったのですが。一方で私もメモには自己責任と書いたのですが、やっぱり選ぶというのが自己責任論になってしまうという自治体もあって。無料の学習支援ってあるよねと。それを利用するかしないかは選んでいるよねと。だから行かない人が進学しないというのは、本人の選択だとも言ってしまうので。一方理念として本当の意味で選べるようにしてい

くのであれば、それってすごいいいことだとは思うんですね。先ほどのお金がないから大学進学ができない。選択ができない状態だから、選択できるように寄付型奨学金を付けましょうとか、本当の意味で選べるようにサポートしていくという意味では、すごく大事なのだろうなと思っていて。どちらになるのかなというのが結構大事なところだとは思いますが。なので、前提として今も未来も子どもたちが幸せであるために、これを保障するために選べるようにサポートをしていくみたいな形であれば、何かすごくいいのかなと今思ったのですが。ただ、文章のことは全く考えていないので、すごく長くなりそうだなというのが懸念としてはあるのですが。

○末富委員

助け船を出すわけではないのですが、他の自治体ですと、やはり子ども観については行政計画なので書かない方が選択肢としては多いかなと思います。それは私自身が助言を求められているケースに限ってのことですが。子どもも若者も多様なんですよ。いつも選べる選択肢があるわけではないこと。あとは公募委員に補足をいただきたいのですが、子どもや若者の時って自分が選んだみたいな意識が持てる時と持てない時がある。例えばですが、親が離婚してどちらかに付いていかないといけないのかということも選ぶことになりますよね。そういう意味で言うと、それは選んだとは思っていない場合もあるということ。子ども・若者の多様性に照らすと、あまり子どもについてこうあるべきだと言うようなことは、こども計画の基本理念には掲げられる選択肢を持たれない自治体の方が多いと思います。むしろこども基本法ですとか、こども大綱の理念は、子どもの意見表明や参画の権利。それから意見が尊重される権利ですね。その実現を重視していますので、そういう足立区であるためには何をすべきなのか。そのような子どもが権利の主体であると位置付けを受けて、それを実現する足立区はいか

にあるべきかというような、自治体としての理念を掲げられるケースの方が今のところは多いかなと把握しています。あくまで参考情報ですが、自治体計画であり、子ども・若者、それから公募委員の皆様たちも、区の様々なお立場の方たちも、一緒に作っていく計画だよなという理念に基づきますと、子ども観を理念で決め打ちすると、その後の議論が必ず何か特定の子ども・若者観でこちらに向かわなきゃいけないという施策体系になってしまい、かえって子ども・若者の選択肢を狭めることになりはしないかと、自治体実務に関わっている専門家としては思う次第です。

○藤原会長

ありがとうございます。やっぱり施策の理念をここで方向性として示していく方がいいということなのだろうと思うんですね。多くの方が否定しないだろうと思うのは、区が子ども・若者のために選択肢を用意する足立であるというのはいいと思うんですね。ということはコンセンサスはあるのかなと思うのですが。施策の理念だとすると、主語は足立区ということになるので、その方向なんでしょうか。

○末富委員

もしくはどういうふうに作りたいかで。私が必ず助言しているのは、子ども・若者と子育て当事者と一緒につくるというのが、こども基本法の第11条に書いてある手続き的な理念なんですね。なので、これをやるのだと言ってしまおうと、また自治体の状況も変わるじゃないですか。そういう意味で言うと、この理念を実現します方がいいのか、それとも常に子どもや若者や家族、子育て当事者と一緒につくっていきますよというようなキーワード。区が大事にしている理念と組み合わせて示される、手続き的なイメージですね。一緒にやっていくのだよと。あらゆる場面で。選択肢をつくり出す時も、大人が勝手に増やさないべきだと。みんながどこで選べていないのかみたいなことを一緒に考え

ていくよというふうなことだと思うので。一緒につくっていくんだという文言・ニュアンスは必ず入れた方がいいというのは共通して助言していることの一つです。

○伊東室長

ありがとうございます。私どもも今末富委員がおっしゃったような思いでいるところです。4ページ一番下ですね。アダチをつくっていくというところ。ここがもちろん行政、私たち区の方が様々なものをつくっていくというところもあるのですが、前回この場で皆さんの議論の中から出た意見のように、それは家庭の中でもある程度つくるものもあるでしょうし、地域の方々と一緒に、そしてもちろん当事者の子どもや若者とも一緒につくっていくことも念頭に置いています。ちょっと言葉としてそこが具体的に盛り込まれてはいないので分かりにくい部分があるというご指摘かと思いますが、思いとしては今委員がおっしゃったことと同じように私たちも思っているところです。それは施策とか、柱とかの中で少しずつ見えるようにしていきたいと思っています。

○加藤委員

今までお聞きしていて、何か違うなどは全く思わなかったのですが、私はこれ、この理念に対してそんなに大きな違和感はありませんでした。選べるというところにいろいろとご意見がありました。これは何か我々なり区なりが選択肢を用意して、そこから選ばせるという意味ではないと私は捉えています。これは子ども・若者が未来へつながる道をとあるので、子どもたちがなりたいものになれるような道だと捉えています。何かこの中から選びなという、そんな意味ではないと私は思いました。

私は都立高校の教員ですが、生まれ育った環境に左右されることなくというところが、非常に足立区らしい文言だなと思いました。今年度、最近の話ですが、本校の生徒でトップクラスの生徒が大学進学を希望していたのですが、親に

懇願・説得されて就職に変えたというケースがあります。それから、経済的な理由で本当は4年制大学に行きたかったのだけれども、お金がなくて2年で卒業できる専門学校に泣く泣く変えたケースも複数出ているんですね。我々はどうすることもできないんです、教員としても。この理念が根拠となって、今話したような本人の責任ではないそういった悲劇が起こらないような未来が来ることを切に願うので、そういう意味が込められているのであれば、子ども・若者が未来につながる道を選べるということで、それは理念として成り立つのではないかなと私は思います。

○藤原会長

ありがとうございます。その話を聞くとストンと落ちますけどね。

○ぬかが委員

先ほどの末富先生のお話に近いことを実は私、言おうと思っていた点の一つありまして。これ最初に見た時に、こども基本法ができて発展していった部分というのが、特に若者とか子どもの参画、意見表明・参画の部分というのが見えないなと思ってしまったんですね。特に確かに先ほどの議論の通り、行政側の奉仕なのか子どもなのか、何を目指しているのかによって違ってくるものだと思います。足立をつくるのも要はお膳立てをする行政の側というか、そういうニュアンスに見えてしまったので、確かにその下の2行を見ても、こういうものをつくるんですということが書かれていて。私、基本計画の審議会の委員にもなっていたのですが、その中でもひと・行財政分科会の中で出た意見というのが、子どもたちが考えていることを行政運営に反映していく仕組みが必要だと思うということとか、子どもの意見を聞くというスタンスではなくて、子どものこうしたいを行政と一緒に考えていくという方向にシフトをしていく必要があるということとか、子どもに対して支援する。支えてあげるという視点が強

いが、子どもは大人と同じ目線に立って考えることができるということも、重要じゃないかとか。そういう意見がすごく多かったということで、区としてもそれを紹介していたんですね。

もう一つ基本計画の議論の中でタブレットを使って、子どもたちの意見を聞くというのをやったわけです。その時に私が印象的で比較的多かったのが、ああしなさい、こうしなさいと言わないで、もっと聞いてほしいという声が結構あったんですよ。だからそういう点では私、ぜひ子どもの参画というニュアンス、子ども・若者の意見表明とか参画という要素を入れてほしいなということ、一つは思いました。それで、もちろんこの案が変わることもあり得ると思うのですが、例えば足立をつくるのは誰なの？って考えた時に、町会とか地域と区の協働・協創って言うと、どうしても従来型で言うと、足立だと町会とか、あとは応援してくれる団体とか、そこがつくってあげるんだよというニュアンスになると思うのですが。だから未来を選べる足立なのか、社会なのか分からないけど、子ども・若者と共につくっていく的な、子ども・若者をそちらに持っていくとか、そういったこともアリなのかなと言うのは一つ思いました。

それから、生まれ育った環境のところだけ非常にリアルで、具体的なのですが、多くの方のご意見は私もその通りだと思っているのですが、生まれ育ったところが具体的すぎるのが、他と比べるとすごくリアルというかですね。例えばこれ、生まれがなくてもいいのかなって思ってしまったんです。生まれなのかなと。育った環境でいいのではないかなとも思いました。別に生まれ育ったでもいいのですが、他の理念と対比すると、そこだけがより具体的すぎるかなという印象を持ちました。結論はどちらでもいいとは思いますが、一応意見をさせていただきます。

○藤原会長

ありがとうございます。学術的に考えると、生まれと育ちの両方はその後を左右するので、

これはセットだと思います。つくっていくというところを、子ども・若者の意見を聞きながらつくっていくというのは、とても長くなりますけど、そういうことと、子ども・若者が未来へつながる道を選べることで、今も未来も幸せな状態になるということですよ。そのニュアンスを込めて。長いですね。

○伊東室長

そうなんです。思いがたくさん私たちにはあって、長くなってしまふものを、徐々に凝縮したもののが今お示しをしているもので、今委員の皆様がおっしゃったことは、会長ともご相談をしながらここまでまとめさせていただきました。私たちの思いとしては入っているんですね。

○藤原会長

“共に”とか入れますか？つくっていくの前に。

○中山委員

まさに足立を共につくっていくとか、一緒につくっていくというので、子どもも子育て世代も地域の方々もという意味は入るかなと思うのですが。生まれ育った環境に左右されることなく子ども・若者が今も未来も幸せに生きていける足立を共につくっていくみたいな形にして、選択というのを理念案のイメージがまさにいろいろな道の中から自分で選んでいるというイメージになるので。そこにすると違和感がなくなる感じがするのですが、いかがでしょうか。

○高木委員

私もスクールソーシャルワーカーで子どもたちの支援ということで、今までもちろんやっているのですが。結局子ども支援イコール親、大人支援というのも当然、そちらの方が多いですね。親の影響を受けて、人生を歩み始める子どもたちという意味では、若くして子育てをしている人たちとか、その方たちの選択肢が少ないというのが、日頃私たちはつないでいく仕

事なのですが、やっぱり選択肢が選びにくい。何でも子ども施策とかたくさんあるのですが、親に対するサービスとか、居場所って本当にないなというところがありまして。今回の理念のところでも、皆さんの素晴らしいご意見がたくさん出ていて。もちろん行政側で用意したというのももちろん、それはそれですごく子どもたちにとっては助かっていることもたくさんあります。やっぱり自分で選べるところをやはり入れていただけることがとても子どもにとっては、子育てをして悩みながらやっぴらっしゃる親の方たちにも同時にいいものができるのかなと思っていて、例えば小さな子どもですね。子育てサロンというのがあるのですが、それが年齢で制限されるというのを私はあまり知らなかったのですが、0歳から3歳までしか子育てサロンが使えなくて。例えば子どもが幼稚園とか保育園に行ってしまうと、今度親が、せつかくお母さんとのつながりがあったところが途切れてしまうことも、親の悩みというのも結構大事なことなのかななんて思いました。それがいずれ将来的な子どもを産みたいとか、子どもを育てたい。楽しみながら子育てができるというところにつながっていくのかなと思いました。

あとはやはり山崎委員が先ほどおっしゃっていた発達障がいの子たちの選択肢。例えばサービスが二つあったら一つしか選べないとか、ちょっとそこで子どもたちの不登校につながってしまったとか、そういったところもあるので、選べる選択肢があればあるほど、とてもいいのではないかなと思いました。

あとはアウトリーチですね。声をなかなか出せない人たちがたくさんいますので、そこで出せる方って力のある方たちだと思いますから、やはり今はやりのアウトリーチも非常に今後の支援としては大事だと思います。

○菊地委員

私から特にこういう案があるということはないのですが、お話を聞いていて、道を選べるというところに対していろいろな意見が出ている

と思うのですが。私は自分で自分のしたいことが言えるような状況のことを指しているのかなと思ったので、これについては、これを変えた方がいいとまでは思っていないのですが。ただ、やっぱり理念として何かを区からしてあげているっていうようなニュアンスが強いと、何かちょっと圧があるというか。私っていうか、子どもとか若者がみんな自分で選ばされていると感じるわけじゃなくて、一緒に区も考えてくれているんだなって。一緒にそばにいてくれて、歩み寄ってくれているんだなというところを感じられるような言葉のニュアンスにしていくと、先ほどの声を上げられないような方たちも、自分たちの心の支えが区なのだと。心を開ける場所が区なのだと思えば、より相談しやすくなるというか、声を上げやすくなるのかなと思ったので、そういうそれこそ共にという言葉はすごくいいなと思ったのですが。一緒につくっていくんだよといったニュアンスを結構強めに出したような理念にしてみてもいいのではないかなと思いました。

あとは生まれ育ったのところも、私はこのままでいいのではないかなと思っていて。というのも、これ足立区として0歳の生まれた瞬間からの絶え間のないサポートをしていきたいという意味合いもここに含まれていると思ったので、0歳から若者として活躍というか、将来像を思い描いていくにあたって、ずっと支援していくよという意味でもいいのかなと思いました。

○藤原会長

より正確に言うと胎児からサポートしてくれるのだらうと思いますが。この流れで感想みたいな感じでもいいのですが、田中委員、どうですか。

○田中委員

皆様に言っていたことがそうだなと聞いていたのですが。一番最初に中山委員がおっしゃったように、今の幸せをしっかりと高めることによって、選択すること自体が取れるとい

うか。ちゃんと土台がしっかりしているというのが、どういう道を選ぶかというところで大事なのかなと思っていて。そのニュアンスを入れてほしいなというのと。菊地委員もおっしゃっていましたが、一緒に、共にというところはすごく私も大事にできればなと思っているので、ぜひ入れていただきたいと思います。

○藤原会長

“共に”のところで家族も含めるようなニュアンスでどうでしょうか。親御さんが重要だということも入ってくると思います。今の意見を踏まえて、いかがでしょうか。

○太田委員

理念というところでなかなか抽象化して、皆さんの思いを一つにまとめるのは難しい作業だなど思いながら聞いていたのですが。一つあるとすると、環境を整備するというところの表現が多くなっているのですが、子どもの幸せ、ウェルビーイングを考えた時に、環境の整備と同時に子ども自身の内面に目を向けることも大事だと思っていますので、そういったところも踏まえた表現になればいいなと思いながら、ちょっと話を聞きながら考えていたのですが。ちょっとまとまらない中で発言しています。

○しぶや委員

私も事前の説明を受けていて、そしてまた皆さんのお話を聞いていて、文章にすると見えてこない部分が、皆さんの意見を聞くと本当にあるなど。中でも皆様からあった、選べるというところで、最初末富委員がおっしゃっていた豊かな選択肢を保障するという言い方一つで、本当にものの考え方が違うなど私自身も子育て世代の1人としても、こども基本法の中でもあるように、当事者としてやっぱり選べないことも踏まえて、選ぶことができるという選択肢が、やはり言い方の表現一つ変えると、豊かな選択肢を保障する。皆様と共に考えて足立区をつくっていくというところが、やはりそういったと

ころが基本計画のまさに核となる、柱となるというのを皆様の意見を聞いて思いました。やはり我々行政としても、足立区の様々な施策にうたってあったり、行政で思うことは、行き届かないところ。いじめ・不登校対策でアンケートを採っていても、中心となって出てくるのが、アンケートに答えない子どもたちが中にいて、その答えない子どもたちは果たしていじめを受けていないのかとなると、そこは実際問題どうなのかというところで、そういった子どもたちの声を拾うことが、何よりこれから皆様と審議会を通して考えていくことなのかなと、改めて自分も実感した次第で。行き届かないところに対して、どのような施策を展開していけば、本当にそういった選べないという選択肢を踏まえて、行き届かないところも、特に子どもたち・若者たちに支援につながっていくのか、サポートにつながっていくのかを改めて考えさせたところです。

○水野委員

皆さんの意見を聞きながらなかなかまとまらないのですが、生まれ育った環境に左右されることなくということで、最初これを見た時は、生まれ育った環境に左右されていない子たちはいいのかなと思ったのですが。ただ左右されている子どもが本当に多い足立区なので、ここにフォーカスしていくことが大事なのかなと思っています。子ども・若者がなかなか意見を反映する機会が今までも少なかったので、ここは本当に入れていっていただきたいなというところで、子ども・若者がというのはいいと思います。

未来へつながる道を選べるというところも、やっぱり人生私もそうですが、子どもの頃から毎日1個1個選択の連続だと思うので。選択することが悪いことというか、ハードルであることは確かなのですが、選んでいける子ども・若者になっていけるといいのかなと思います。一時の幸せではなくて、幸せがずっと続くような足立区の基本計画でもウェルビーイングの実現するというのを今回据えています、選択をしな

がらウェルビーイングの実現につながっていくような足立区にしていくということですね。共につくっていくところなのかなと私は理解しました。

子どもへの支援と共に保護者への支援も本当に大事なと思いますし。ちょっとまとまらないのですが。皆さんと話しながら、私もしっかり考えていきたいと思います。

○長谷川副会長

今日、冒頭に会長の方から、今日理念を決めないといけないという話があったのですが、これだけいろいろご意見をいただいて、理念ってすごい大事な一番ポイントなので、事務局とは調整していませんが、今日ここで確定しなくてもいいのかなと思っています。今日お話を聞いて、私二つ気になったのは、最初に末富先生から、あるべき姿というか、選ばなくちゃいけないとか、そこは行政計画としては書くべきではないですよ。あるべき姿に絞られるから。要するに選ばなくてもいいじゃないかという考え方もあるし、行政計画だったら、やっぱり選ぶ選択肢を増やしていくということを書くべきだという基本のご意見をいただいたということ。それから中山委員から選ぶことによって自己責任論ですね。そこに陥ってしまうという危険を感じました。なのでここでいろいろ文言を、あとは事務局一任だというような軽いものではないと思うので、今日非常に皆さんから貴重なご意見をいただいたので、改めてもう一度事務局でたたいて、再度ご検討をいただいた方がいいかなと思いました。

○中村委員

やはり足らしさというところで、冒頭の生まれ育った環境、この言葉があると、どうしても選ばせてあげたいという気持ちにつながって、選択という言葉になっているなど。語呂がいいというか。ただ、これは責任が伴うように見えてしまうので、足らしさを優先するのか、それとも子どもの意見を尊重するのはと

ても大事なことなので、そういった子どもの意見をしっかり尊重しながら、子どもたちの明るい未来を共につくっていくという、どちらかというと当たり前の理念になってしまうのですが。その辺どちらにするかで、選択する言葉が違ってくるなと思いました。そういった意味ではなかなか短い文章で基本理念をまとめるのはとても難しいので。ちょっと時間を置いて改めて、ここでは結論が出なさそうなので、冷却してから考えてはどうかと思いました。

○中山委員

今の生まれ育った環境に左右されることなくというのは、私は結構大事かなと思っていました。というのは、子どもの意見表明みたいなもので、私も他の自治体でも担わせていただいているところがあるのですが、そうすると基本的に募集すると、比較的高年収の世帯の子が多いんですね。どうしてもそういうのをやってみたいとか、親がやらせたいとかっていうので。なのでこの言葉があることによって、そうではなくみんなの意見をちゃんと聞いていくとか。むしろ私たちから聞きに行かないといけないのだということになると思うので、大切なのではないかなと思っています。

○加藤委員

生まれ育った環境というところは、言うまでもないのですが、裕福かどうかというところに限らず、お金さえあればいいというものではないので、そこは共通理解をしておきたいなと改めて思います。お金があっても、決して子どもが幸せに育っているのかということ、そんなことはない。そんな生徒は高校生を見ても少なからずいるので、そこは現場感覚として注意しておきたいと思います。それから、選べるというところは、確かにデジタルな感じがするというのは、本当に分かるのですが、他にどんな言葉だとしっくりくるのかなと考えていくとなかなか難しいので、ちょっとこの時間でというのは難しいと思うのですが。何かあるんでしょうか。

何かいろいろ今手元の辞書を見ていて、求める、求められるとか、そんな言葉もあるのかなと思いつつ。でもしっくりこないとかいろいろ思ってしまうのですが。何かいい言葉があるというかなと思うのですが。

○藤原会長

私の感覚は、ちょっと語呂は悪いですが、主体的に決めるというニュアンスだと理解しているんですね。それを分かりやすく言うと、選ぶと言う言葉を事務局では選んだのだと思いますが。では主体的に決めるにしますか？堅いですよ。

○小野委員

そうですね。本当にこの部分に関して加藤委員のお話もうかがったりして、確かに親の都合とか、そういうことにならないような環境を整えるという意味でも、選べるという言葉が使われているということで納得したのですが、そこを目指したとして、でもやっぱり選べない人は一定数出てくるから、そういう人たちに対する施策はどうするの？というのを、ここにもし選べる、選べないとかの話を書くと、そういう議論ができなくなると思うので。選べるか選べないかを、この理念の段階で入れなくていい。外してみんなで幸せに。幸せになるために未来をみんなで作っていくぐらいにとどめられたらいいのではないかと思います。

○藤原会長

それをどうやってやるかという中で、ある人によっては多様な選択肢が用意されるという施策が有効な場合がある。そうじゃない人にはこうみたいに落としていくということでしょうか。

○山田委員

具体案となると難しいなと思いながら聞いていたのですが。4ページの未来につながる道を選べるというのを、例えば未来につながる道を選ぶとかにすると特定の若者像を希薄化するよ

うなニュアンスが強まるのですが。資料を遡って、3ページ。選ぶことができるというのは、選ばないことも可能であるという概念があるような気がして。選ぶことでという選択肢もあり得ると思ったのですが。選ばない可能性も含めて、選択肢の幅を保障するとか、いろいろな選択の組み合わせの可能性を担保するという考えかなと。そうするといわゆるケーパビリティアプローチで、選べる。選ぶことができる。表現の中にはあり得るような気がする。必ず残したいという強い意見じゃないですが、今日いただいた資料を見ると、選ぶことができると。冗長に思いつつも、選ぶと思ったら選ぶことができるようなそういう足立を共につくっていくみたいな文言の選び方もあるのかなと思いました。

○藤原会長

ありがとうございます。選べるのところをかみ砕く可能性があるということですね。

○山崎委員

今皆さんのご意見をうかがっていて、ああ、なるほどと思うことがたくさんあったのですが。生まれ育った環境に左右されることなくというところが、やはり足立区のボトルネック的課題の根底のところ、貧困の連鎖というのがあって。そこを考えるとトップに来ているというご説明があったのですが。やはりこれは外せないのかなと思うんですね。一方、こども基本法とか、子どもの参画とか意見表明という部分があって、この理念だとじゃあ誰の意見を聞くの？という時に、貧困世帯の意見を聞くという流れがどうも見えてしまうというか。なのですが、実際に発達支援をしていくと、発達障がいの子で意見を全然言えない子がいるわけですね。ただ意見を持っているんですよ。じゃあ自分から発言してと言っても発言ができないわけですね。ただ、感情とか行動で示してしまったり、そういう声なき声をいかに拾い上げるかということも、理念に盛り込めるかどうか分からないで

すが、合わせて背景としては考えておきたいなと思うんですね。教員時代にこども区議会とか他区ですが生徒引率がありました、やっぱり学校の代表でいく子って意見が言える子たちばかりなんですよ。実際にいろいろなところで困っている子たちは行かないんですね。行ってもしゃべれないという状態で。

だからやっぱりアウトリーチというか、こっちからアプローチをして、そういう本当に困っている子たちで、意見を表明できない子たち。これは貧困に関わらず、いろいろな理由で声を発することができない子。でも小学生だって意見はあるんですよ。意見が言えるのって中学生・高校生みたいなイメージがあったりしますが、小学1年生だって意思表示ははっきりしますから、かんしゃくを起こしているのを、かんしゃくを起こしているね、ではなくて、彼らにとって今必要な支援って何なのだろうという、言語にならない部分を考えていく。そういう声もひっくるめて共につくっていくというところに持っていけるといいのではないかと一つ思いました。理念に組み込む、組み込まないは別として、そういう背景もあるとより深まりが出ると思いました。

○藤原会長

ありがとうございます。“すべての”とか入れる感じですかね。理念的には誰一人取り残さない、といったことですよ。

○末富委員

恐らく生まれ育った環境に左右されることなくというのは、第1期から足立区が子どもの貧困対策計画で大事にしている理念で、これが旧法の子どもの貧困対策法の第1条なんですよ。なので、そこをすごく大事にして、こども計画に際しては今まで大事にしてきたことのコアに立ち返っているのだと思います。それが足立区の基本姿勢だということは理解しました。その上で、過去の子どもの貧困対策計画は理念が三つか四つあったんですね。今回やっぱり一つに

決め打ちするかどうか、議論の難しさを呼んでいるなと思うので。私が理想とするこども計画は、最もコアとなる理念というのは、子どもや若者や家族がそれを見た時に、足立区って聞いてくれそうだと思う。区に言え、のメッセージであるべきだと思うんです。だから子どもや家族がこうあるべきじゃなくて、共にやりましょうということがまず最初に基本理念として来るとして。だけど、足立区としては、選べるとか、生まれ育った環境に左右されることなくに込めた足立区の皆さんの熱い思いと、これまでの大変なご尽力は、私もよく承知しているところなので。その時に、足立区はこれをやるよというのは基本理念に入れた方がいいと思うんですね。

ただ、それの前に、子ども・若者、子育て当事者と一緒にやっていきますよということ、もう一度問い直す必要がある。やはり3本柱というか、区民へのメッセージと共に、生まれ育った環境に左右されることない。それから選べるように私たち頑張ります、という意味表明みたいなものを構造化して基本理念の柱にされてもいいかなと思いました。今の幸せというところを保障しながら、だけど一緒につくっていくんだよというのがメインに来ると、頑張れと言われるとちょっと違うな。そうではなくて、みんなと一緒に幸せな足立区をつくっていききたいのだからみたいなところが伝わると、すんなり入りやすいと。その上で足立区、とても頑張っているなというのが、生まれ育った環境に左右されることがない、選択肢を豊かにしていく足立区なのだからみたいなところが入ってくるといいかな。一つじゃなくて、今までのレガシーを踏まえて3本柱ぐらいでいかがでしょうかと思いました。

○田中委員

今末富先生の意見を聞いてそうだなと思っていて。この案って、当事者というか、我々若者とかが見た時に、うーん、そうなんだ。あまりワクワクしないなというのがあって。当事者た

ちにメッセージとして伝えるならば、例えば子ども・若者と共に楽しめる足立をつくっていくとか、何かそういうワクワクするような要素が入ってくるとより良いのかなと思っていて。その下の構造の中に自治体としては生まれ育った環境に左右されることなく支援していくというのがあってもいいのかなと思いました。

○藤原会長

理念が一つか複数かというのは、事務局としてはいかがですか。

○事務局

今回案で示したのは一つということですが、今回いろいろなご意見をちょうだいしていますので、そういった一つではなくて、もし三つで表現するのが適切だということであれば三つ。確かに子どもの貧困対策実施計画においては、四つ理念を挙げていますので。先ほど末富先生からありましたように、そういった方向性でということも踏まえて今日ご意見をいただきましたので、また検討はしたいと考えます。

○藤原会長

当初一つを想定されていたのは理由があるのですか。

○事務局

これは分かりやすさというところで。理念なので、子どもたちがどういった将来像であるかというところが一つにあった方が分かりやすいかなというのが理由です。

○藤原会長

誰に対して分かりやすいのですか。

○事務局

こちらはいわゆるこども計画の中身については、誰が読んでも分かりやすいようにということで考えていますので、誰に対してということであれば区民に対してです。

○長谷川副会長

区民に向けてということでは、先ほど田中委員からあったように、私たちはこの計画は子ども・若者に向けたメッセージなので、向けた人たちに届くようなワクワクするようなものをつくりたいと思うので。そこは1本にするとゴチャゴチャするならば、末富先生が言ったように三つに分けてもいいから、私たちのメッセージがその当事者に届くような構造にした方が理念としてはいいかなと思います。

○小野委員

皆さんが全部合意しているのが、生まれ育ったであったと思うのですが、個数に関してはどちらでも大丈夫なのですが。生まれ育った環境に左右されることなく、とあるのですが、人間って生まれ育った環境に絶対に左右されると思うんです。中世のキリストの世界で暮らしていた選択肢がない人たちが不幸だったかというところじゃないと思ったりして。私も別にそんな高給取りではないですが、別に幸せだったりして。幸せであればいいんじゃないかと。生まれ育った環境に左右されようが、別にいいんじゃないかって思いました。

○藤原会長

それは足立の政策が良かったからかもしれないですが。左右されるという厳然たる事実があるからこそ、そうじゃなくするように頑張るという意味表示でしょうか、足立の。そう理解していますが。

この対象が子ども・若者なのですが、先ほど高木委員がおっしゃったように、家族・親も含まれるでしょうし。加藤委員が言うように先生たちも子ども・若者を育てるという意味では重要なステークホルダーなので。そこはやっぱり読み手の対象としては具体的に想定すべきだと思います。つまり、そういう意味では保育園・幼稚園から、高校、それ以降も含めたような関わる人たち。中山委員がやられているようなパ

ークリーダーとか、そういった考え方もあるのかなと思います。そういう人たちもこの理念を見て、あ、こういう足立をつくっていくことに貢献している自分なのだ、となるといいですね。まさに今の子どもの幸せのためにやっているわけでもんね。それが未来にもつながっていくということなのだろうと聞いていて思いました。

まだ時間はあるのですが、どうでしょうか。理念を決めなくていいとはいえ、理念を決めないと先に進めないということなのですが。ポイントとしては、まさに複数にするにしても、ポイントとしてはここにあるところと言うと、今まで議論してきたことと言うと、今も未来も幸せな。田中委員から楽しいとかワクワクするみたいなキーワードが出てきたと思いますが。足立の子どもたちが今も未来も幸せで楽しくてワクワクする足立であるというのが大前提。その次にそのためにやろうと思えばやれる。多様な選択肢があるという足立。そこには行間としては選ばないという選択肢も含まれる。当事者・子ども・若者の意見というか、考えを声が強めの人だけではなくて、声を発せない人の声も含めて積極的に聞いていって大事にして。1人を大事にする足立ということなんですかね。そこはコンセンサスとしてはあるのかなと思いました。

あまり環境に左右されることなくは今の足立らしさで残ってくるとは思いますが。その辺りをまとめる感じですかね。

○川上委員

皆さんのご意見をうかがったのですが、要は子どもたちが未来にわたってどのようになったら幸せになるのか。それが基本だと思うのですが。その中に加藤委員がおっしゃったように、貧困はそんなに関係ないよということがあったのですが、やはり生まれ育った時に、その家庭が貧困の中で例えば生活保護を受けている家庭で生まれた子は、ずっと引っ張っていくような感じもするのですが。これから職業の自由もあ

ることですから、何でもなれるといいのですが。やはりその中では教育が一番大事だと思っています。ですから、そのところも環境に左右されることなくというか、環境に左右されているんですよ、実際には。そこでもってどのように表現していいか。事務局の方がまた頭をひねっていい案を出していただけると言うのですが。子どものこれからの幸せを、どのように大人が責任を持っていくのかということ、文言葉を一ついれていただければと思っています。

○加藤委員

未来へつながる道というのは、事務局に質問ですが、これは具体的に言うとなりたいものに何でもなれるということでもいいのですよね、職業も含めて。

○事務局

なりたいものになれるというよりは、なりたいものにチャレンジできる。向かっていけるという意味合いを込めています。

○加藤委員

それこそ貧しい家庭であっても、医者になりたいと思ったら、大丈夫だと。任せてというところが理想だと考えていいのでしょうか。分かりました。

例えば未来へつながるあだちプロジェクトのあだちはひらがなですが、今回はカタカナになっている理由は何かあるのですか。

○事務局

文章がちょっと長かったので、ここにひらがなであだちと入れると埋もれてしまうということもあったので、足立を目立たせるためにカタカナにしたのと。あとはつくっていくというところが、どうしてもひらがなに置きたかったというところがあったので、そことの対比を付けるためにアダチと置かせていただきました。

○藤原会長

要素的には今話していたことでいいのかなと。あとは言葉でしょうか。一番議論があったのが、選べるというので。今山田委員から選ぶことができるとかみ砕くか、あるいはしづや委員が言われたように、豊かな選択肢があるというのは、主体が足立区になってしまう感じがあったのかなと思うのですが。その辺りについてご意見があれば。

○菊地委員

私の方でその選べるに変わるような言葉が思い付かなかったのですが、こういう意味合いだったらいいかなというのが、私的には“進める”という言葉で。道を選ぶ選ばない、選べない人たち、選べる人たちというところだと、やっぱりちょっと強制力が強いのかなと思って。背中を押してあげる政策。その道を進みたいと思ったら進んでいける道しるべを作ってあげられるという意味でも、その道を進めるも選べるに似ているし、何なら選べるという要素も入ったような言葉になってしまうかなと思ったのですが。前向きな用語を入れたい。ワクワクするようなワードを入れたいという時に、前に進むという意味でもいいかなと考えました。

○藤原会長

素晴らしいご意見をありがとうございます。立ち止まっていない足立の子どもたち、若者たちのイメージが湧いてきますよね。進める、進むことができるというのは。

○伊東室長

非常にいい参考になるキーワードをいただいたと思います。思いとしては私たちも背中を押していくとか、地域全体としてそういう空気をつくっていききたいというところがありますので、その点も踏まえて案を練り直したいと思います。それが一つの文章にするのか、三つになるのかも含めて、また改めて考えさせていただいて、次回の審議会にお示しをしたいと思います。

○藤原会長

言葉が決まらないと次に行けないですか。

○伊東室長

一番上の理念のところが固まらないと次に進めないと思いますので。用意したものはありますが、次回以降で議論をいただきたいと思いません。

○山崎委員

今いい形でいい言葉が出てきて、まとまってきた感じがします。今話の流れの中で出てきて、高木委員がおっしゃった通りなのですが。選ぶとか道を進むという時に、学校とか巡回相談とかで回っていたり、通教に入りますか、入りませんか。検査を受けますか、受けませんかとなっていった時に、やはり自分で選べない子もいるわけですね。保護者がそういう時は道筋を付けてあげるということもあると思うのですが。どこにどう相談して道が付けたらいいのかとか、学校の先生はこう言うけど、他の人の意見を聞いてみたいとか、やはりいろいろ出てくるんですね。だから、若者とか子どもが意見表明をしていく、参画していくということももちろん大事なのですが、子育て当事者として保護者の意見をきちんとくみ上げていくというところ。保護者にも寄り添うというのは、やはり外せないポイントなのかなというのは、全体を聞いて、改めてちょっと思いました。

○藤原会長

ありがとうございます。生まれ育った環境のところで、収入のこととか言っていますが、最大の環境はまずは親ということですよ。では、よろしいでしょうか。

では、事務局にお返しします。

4. こども計画柱立ての検討について
5. 意見交換
6. こども計画施策について
7. 意見交換

※4～7は実施せず

8. 事務連絡

○事務局

本日はありがとうございました。理念について様々なご意見をちょうだいしまして、また事務局の方も本日いただいたご意見を元にまた案を練り直して、次回につなげていきたいと考えております。次回ですが、年明けになりますが、令和7年2月21日金曜日です。時間は今回と同じ。場所も同じです。会議開催前には改めて書面で通知をさせていただきますので、またご確認をいただければと思います。ではこれにて会議は終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。